

健康経営推進に向けた健康増進型医療保険の役割

諏 澤 吉 彦
永 井 克 彦

目 次

1. はじめに
2. 健康増進型医療保険の医療費削減効果
3. 健康増進型医療保険の支払能力への影響
4. 健康増進型医療保険の収益性
5. おわりに

健康関連変数が改善すればリワードを付与する健康増進型医療保険は、被保険者の健康増進行動を促し、ひいては健康経営推進にも貢献し得る。本稿では同保険の保険金削減額を将来予測し、その引受けが保険会社の支払能力と事業価値に及ぼす影響を検証した。その結果、健康改善は保険金削減につながり、また、期待保険金削減額の全額をリワードに充てても支払能力が強化される一方で、事業価値の変化は小さいことが見いだされた。

1. はじめに

近年、従業員の健康増進と生産性向上をともに目指した健康経営®のあり方が、学術的にも実務的にも盛んに議論されるようになってきている。健康経営は、企業が従業員の健康増進を図ることにより、生産性向上を目指すものであり、古く20世紀初頭から組織行動論の分野などで繰り返し分析されてきた。さらに近年は、単に身体的、精神的

な健康増進を目指した人的資本投資の視点にとどまらず、従業員の特質と職場環境との適合、生活の質とパフォーマンスの関係、職場または業務に対する感情と生産性との関係についても研究が広がった結果、ワークライフバランスの推進、従業員の成長機会の確保、成果の承認、従業員の意思決定への参画の重要性にも議論が及ぶようになっている。

このように健康経営の必要性が注目される中、



諏澤 吉彦（すざわ よしひこ）

京都産業大学経営学部教授。2006年一橋大学商学研究科博士後期課程修了。博士（商学）。近著に『保険事業の役割—規制の変遷からの考察—』（中央経済社、2021年）がある。



永井 克彦（ながい かつひこ）

㈱JMDC、米国アクチュアリー会正会員。2007年東京大学数理学研究科修士修了。三井住友海上きらめき生命保険、ウイリス・タワーズワトソン日本オフィスを経て現職。